

最優秀賞

前田 主介
UID【作品名】
shrimp設 計
施 工
竣 工 日
UID
ホーム 株式会社
2014年5月25日

◎建物概要

建設地 広島県福山市
 敷地面積 155.40m²
 延床面積 141.80m²
 構造・規模 鉄筋コンクリート造(一部木造)2階建

◎設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン
その他	ディスポーザー

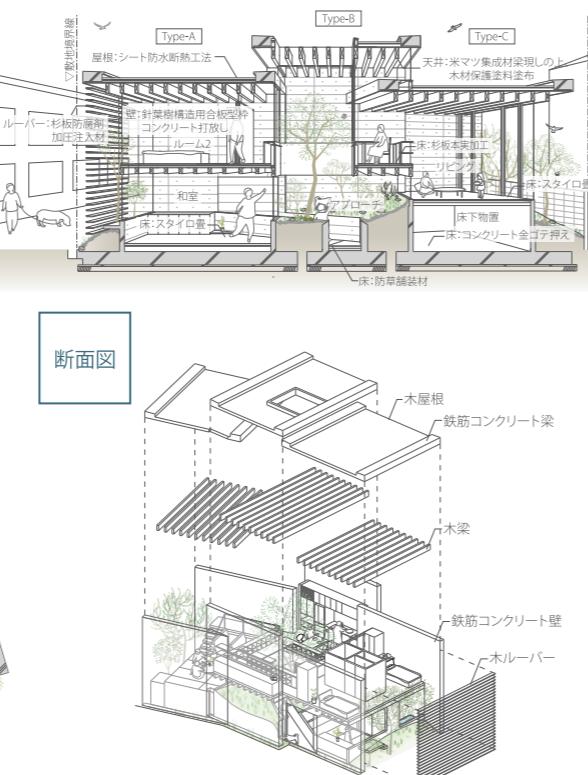
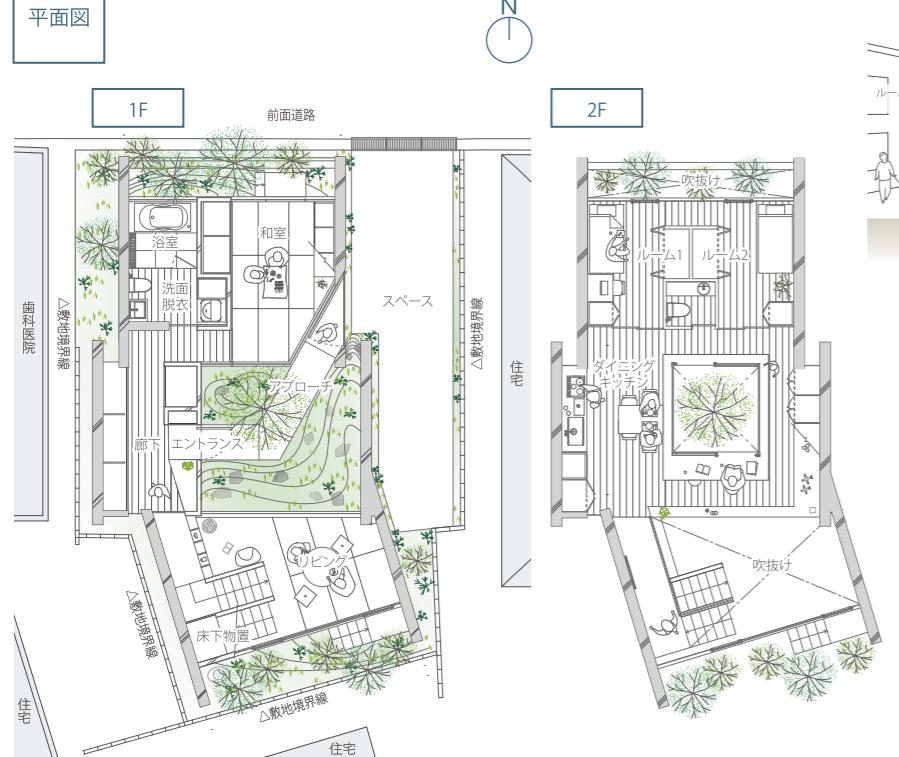


1.1階アプローチに植えている植物と人の距離を近づけることによって、花の薰りや岩、土といった少し鬱蒼とした山深い環境を作り出す。

2.2階の木ルーバーやアプローチから伸びる木々の枝葉の隙間から陽光が差し込む。

3.中央の中庭を囲むように四方にテープルや棚などを配置して回遊できる構成としている。3つのボリュームの高さのずれがハイサイドとなり、中庭のトップライトと共に光と風を呼び込む。

平面図



設計コンセプト

都市の中に溶け込む新たな立体的コートハウス、福山市中心市街地の一画に建つ住宅の計画である。

北側前面道路に接する敷地は南北に細長く折れ曲がり、敷地周囲は住宅ビルによって囲まれている。このような敷地の中においても日常の豊かなひとときを奏でていくための空や水・土・陽光・風、そして動植物とのインタラクティブな関係性が生まれる市中山居のような環境を考えた。

計画としては周辺外部から遮蔽されたような関係性ではなく、もっと人が関わりを持つ範囲を広げていけるような関係性を目指してコートハウス的な要素を立体的に内部に取り込んだ。

南北に延びる敷地に対して1つの大きなボリュームで捉えるのではなく、3つのボリュームに分節し、ボリュームの隙間から滲みこむ外部環境とのつながりを期待した。

具体的には東西の隣地に対して地面から立ち上がる6枚のRC独立片持ち壁により3つの殻を形成した。その間に生まれた

審査委員講評

大きながらんどうと内外殻が混じり合うことで生成されるスリット。そこに、分節された殻を跨がっていくような異なるフロアレベルを持つ自由な木造スラブによって、ランダスケープと絡まりながらそれぞれの居場所をつくりだしている。そして、大きさの異なる殻は複雑に内外部空間を紡ぎ出しながら、陽光や風が人の滞在場所を抜けていく。

甲殻類のような殻と殻との隙間と断続的な内部空間によって分棟形式のようでありながら領域が規定されない広がりを獲得している。それは、中心市街地にいながら現代の山居のような環境を生み出している。

都市部の住宅街において敷地周辺の状況を丁寧に読み取っていきながら近隣とのほどよい領域の関係性をつくり出すこそ、何気ない日常のひとときを豊かなものにさせるエッセンスだと思っています。

4.分節された殻を跨るように異なるフロアレベルを持つ木造スラブにより、ランダスケープと絡まりながらそれぞれの居場所をつくる。大きな異なる殻は複雑に内外部空間を紡ぎ、陽光や風が人の滞在場所を抜けていく。

5.リビングからは高さ710mmの開口よりアプローチの植栽が伺えるなど、レベル差により植栽を身近に感じることができる。

また、中間階のリビングを設けることで、年配のご夫婦が無理なく2階へアクセスできるよう計画している。

最優秀賞

安井 裕之

チャイアーキー級建築士事務所

【作品名】
宮ノ町の記憶

設計 施工 納工日
チャイアーキー級建築士事務所
株式会社 内藤組
2015年11月14日

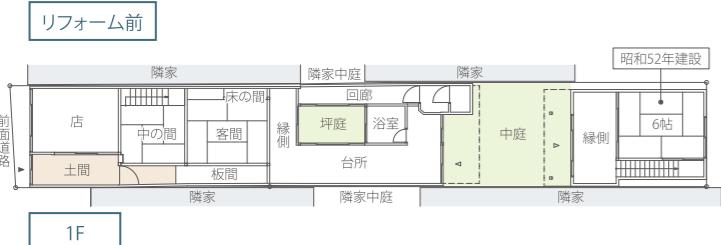
◎建物概要

建設地 島根県出雲市
敷地面積 141.27m²
延床面積 129.59m²
構造・規模 木造2階建

◎設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図



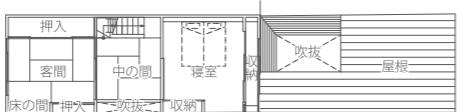
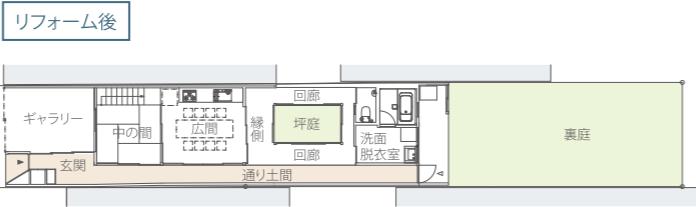
2F



離れ



N



2F



屋根裏

設計コンセプト

改修リノベーションは、新築と違い制約があり、骨格も決まっていることが多い。そのため自由度は低いと思う。ただ、その縛りが余計な事を考えず、素直に現実と向き合い、自ずと答えを導いてくれるような気がする。ただし、その答えが導き出されるまでは苦しい。何か一つ導きだされると、あとは嘘のようにスムーズに流れ出す。この計画では坪庭を囲う回廊がそうだったように思う。

約150年前に建てられたこの住宅は、代々引き継がれ、祖父から孫(建築主)へと譲渡された。内部の天井材や梁、土壁は当時のままで、その静かな力強さに魅力を感じた。どのようにそれらを主役として残し、現在の住まい方や素材との組合せをどう作り出していくのか、常に考えて

審査委員講評

いたと思う。現場でその空気感と向き合い、模型を片手に見比べながら常に客観的でいようと努めた。そのため計画にない変更をその都度した。この建築は、建築主の強い願いと、一日中現場で管理してくれた現場監督と、尽力してくれた職人たち、客観的に指摘してくれる仲間の支えで完成したと思っています。



1.過去に何度も改修され、奥まで通っていなかった土間を裏庭まで通した。どこからでも住宅部分に上がる面白さと、坪庭やそれを囲う回廊と通り土間へとつながる空間が、住宅では味わえない空気感を作っている。

2.この住宅は約150年前に建てられた奥の長い住宅で、各部屋の建具で間仕切られている。この建具を利用して坪庭からの光や風を取り入れている。1階の中間と広間との間に設置した建具はシナフラッシュ引込み戸とし、前面道路からプライバシーを守る役目をしている。



1



2



3.地震時に住居が崩壊する主な原因に柱・梁の仕口部の脱却があげられ、それを防ぐ為に「仕口ダンパー」を27ヶ所取付け対応した。

4.建築主は30代の夫婦で、ご主人は勤め人で、ながらクラフト作家として活動している。この改修をきっかけに、自身の作品などを紹介するスペースや簡易カフェとして利用する事を要望された。(1・2階中の間、客間の利用)ギャラリー部分は木製建具を引込み、街道とつながるように計画した。木製建具は、ガラスの代わりにSUS製メッシュを2重に張り、閉めた状態でも外部の音や空気を感じられる半屋外空間としている。

5.屋根裏に断熱材185mmを施工し、開閉式トップライト窓、床置きエアコンを計画した。既存の壁が荒々しく力強く、その壁に負けないよう天井材の仕上げは、杉の荒材を真鍮で打ち付けただけとした。

5

優秀賞

原浩二

原浩二建築設計事務所

【作品名】
中庭のある家

設 計 原浩二建築設計事務所
 施 工 ヒロシ 株式会社
 竣 工 日 2016年3月9日

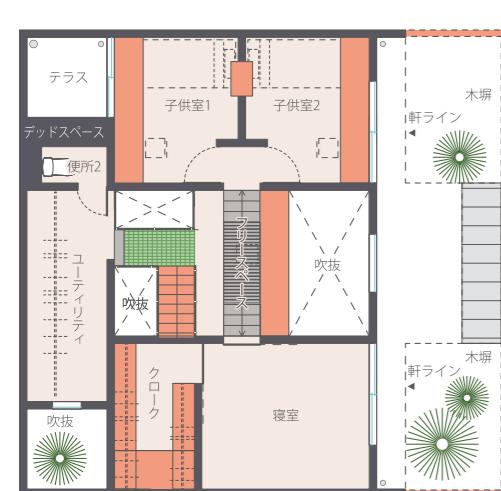
◎建物概要

建 設 地 島根県出雲市
 敷 地 面 積 95.65m²
 延 床 面 積 129.51m²
 構造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 薪ストーブ

平面図



2F

設計コンセプト

敷地は出雲大社近くの新しい住宅地の一画で、道路を挟んだ東側には3階建ての団地もあり少々落ちつかない環境でした。外観は軒高を低く抑えた家型で、極力ボリューム感を抑え、グレーに着色した板塀は、施主様の「プライバシーを守りたい」という要望に答えて、中庭とLDKの大開口を周囲の視線から守っています。中庭の中央には外部物置と大きな軒下を確保して使い勝手を良くしています。内部空間は玄関から居間へと続く土間空間を配置して、「木堀～中庭～土間～居間」と奥行きのある空間をつくりだし、その土間に薪ストーブを設置して、吹抜けのあるこの家の冬場の室内環境を快適なものにしています。また、あえて1階中央に300mmほど床を下げたクローケ室のボリューム(上部は中2階のフリースペース)を置くことで、DKと居間を緩やかに



1F

審査委員講評

こんな宇宙船があつたら、長期間の宇宙旅行もきっと楽しいでしょう。宇宙に漂う隕石や様々な障害物から身を守りつつ、内部には自然を取り込んだ豊かな空間が広がっています。中庭、土間スペースで運動不足を解消、味のあるタイルが生活に潤いを与えてくれます。宇宙船の中心に配した大きな収納も長期の宇宙空間滞在にはかかせないものとなっています。



1.2.3.玄関から居間へつなぐ部分を7畳ほどの細長い土間空間とし、木堀～中庭～土間～居間と奥行きのある空間をつくりだしています。そして、その土間に薪ストーブを設置することで、吹抜のあるこの家の冬の室内環境を快適なものにしています。



4.家型の外観の一部を板貼の塀でおおった中庭にすることで、光と風はよび込みながらプライバシーを完全に確保するつくりとしました。中庭の中央には外部物置と大きな軒下を確保して使い勝手を良くしています。

5.LDKの中央に300mmほど床を下げたクローケ室のボリュームを配し、その上部を中2階のフリースペースとしています。DKと居間をゆるやかに区切りながらも、2階を含めた家全体の一体感を確保しています。ワンルームの中央にあえてボリュームをもつてることで、空間の回遊性と奥行、さらには適度な囲われ感を生みだしています。

優秀賞

稻垣 年彦+大賀 環子
t/rim design【作品名】
福田の家設計 t/rim design
施工 創美建設 株式会社
竣工日 2015年1月7日

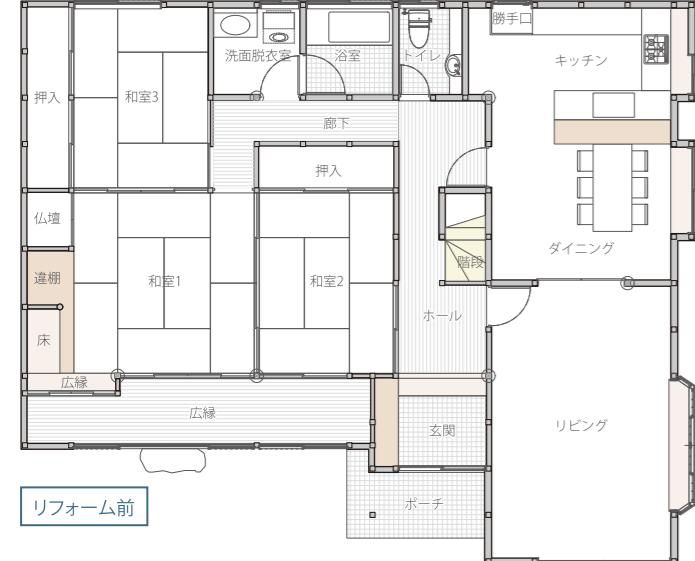
◎建物概要

建設地 岡山県備前市
敷地面積 383.00m²
延床面積 194.00m²
構造・規模 木造2階建

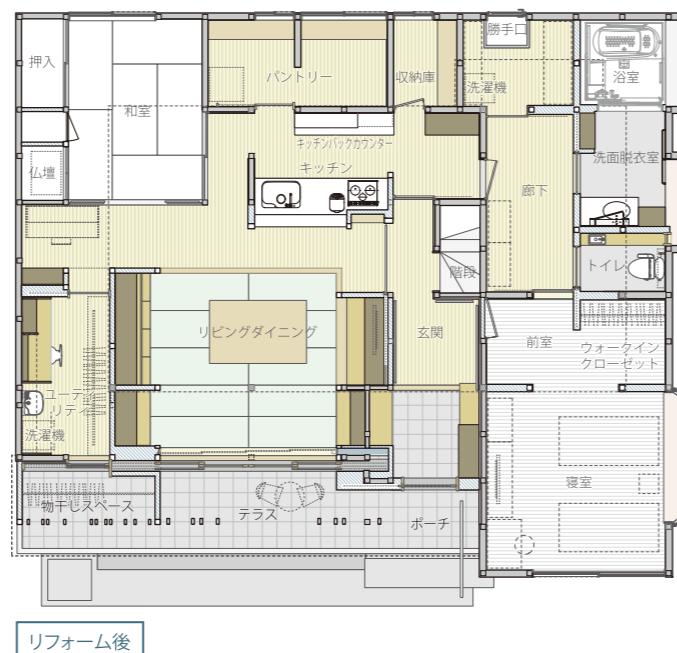
◎設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン
その他	食器洗い乾燥機

平面図



リノベーション前



リノベーション後

設計コンセプト

備前市の南西。岡山市へと続く鉄道や幹線道路からも、そう遠くない場所ながら、瀬戸内らしい緩やかな小山に囲われ、古い家の間を縫うように続いた旧街道沿いに面した、昔ながらの風情が残る良好な住環境に位置していた築20年の住宅のリノベーション。

主だった改修は1階部分で、外観にはほとんど手を加えていませんが、玄関と隣側のアルミサッシだけは撤去し、耐震壁を付け加え、木製建具で一新。既存のポーチを広く延長する形で、既存屋根下に新たな庇屋根を差し込んで、テラスと物干しスペースを新設。新たな庇屋根を支える柱は、やや縦長平面のものとし、ランダムな動きのある配置で、奥行きのある佇まいを創出。

改修前のプランでは、玄関から入った左手の好位置に「立派な3和室+広縁」。いまや地方においても、冠婚葬祭などは家の外で行われることが増え、親戚など大勢が一度に家に集まる機会に重宝していたこの様な立派なスペースの使用頻度は

少なくなりました。この御家庭でも「立派な3和室+広縁」は、洗濯干しスペースや、子供のおもちゃ置場等として使われていました。その好条件なスペースの価値を、もう一度、最大限有効なものとして活かす事をメインに、建物全体の計画を進めました。最も好条件な位置に配置されていた「和室+広縁」をリビングダイニングとして改修。北東角にあったキッチンを、リビングダイニングに面した家の中心に据え、新たな生活の中心となったリビングダイニングは、その南側にテラスと庭を望める、家族みんなで囲える大きなローテーブルのある畳敷きの床座スペースに改修。パントリーやユーティリティといった機能スペースの充実の為の改修や以前LDKだったスペースをトイレや浴室などの水廻りに近接した親世帯寝室として改修、耐震性強化の改修や断熱性強化の改修…などなど機能性や耐久性の向上に努めながらも、この場所の魅力や恵まれた周辺環境との繋がりを、以前にも増して享受できるようなリノベーションとなる事を心掛けました。

審査委員講評

ごく一般的なファサードの民家に、新たに差し込んだ庇屋根の構成が、住空間の質の高さを決定づけています。改修部分のほぼ中央に新たなキッチンを置き、リビングダイニングを通して、テラス、庭へと続く連続性は素晴らしい。この落ち着きのある空間は、軒の絶妙な高さ設定からであろう。屋根を支える扁平形状の柱の採用などを含め、設計者の力量が感じられます。



before



1

after

1.【before】「立派な3和室+広縁」は、洗濯干しスペースや子供のおもちゃ置場等として使われ、そのスペースの価値が、必ずしも有効に使われていた訳ではありませんでした。

【after】「立派な3和室+広縁」を新しいリビングダイニングとして改修。北側の家端にあったキッチンは、新たな生活の中心となつた「床座のリビングダイニング」と、さらにその向こうの南庭を望める位置に配置。畳敷きとしたリビングダイニングには、家族みんなで囲える特注の大きなローテーブル(2m×1.3m)を設けました。



2



2.3.かなり昔から在った土塀が、周辺では徐々に「コンクリートブロック塀やアルミフェンス」へと変わっていく中、この恵まれた環境とこの場所で蓄積された歴史への敬愛を込めて、傷んだ土塀を補修し、漆喰を塗り直し、狭かった既成品カーポートは撤去。古い家屋の存在をリスペクトしながら、街道沿いのイメージをリフレッシュできないかとの思いを込めて、新たな屋根・門扉を設置。

3

佳作

谷尻 誠+吉田 愛
SUPPOSE DESIGN OFFICE 株式会社【作品名】
広島の小屋設 計 SUPPOSE DESIGN OFFICE 株式会社
施 工 アルフ
竣 工 日 2014年7月20日

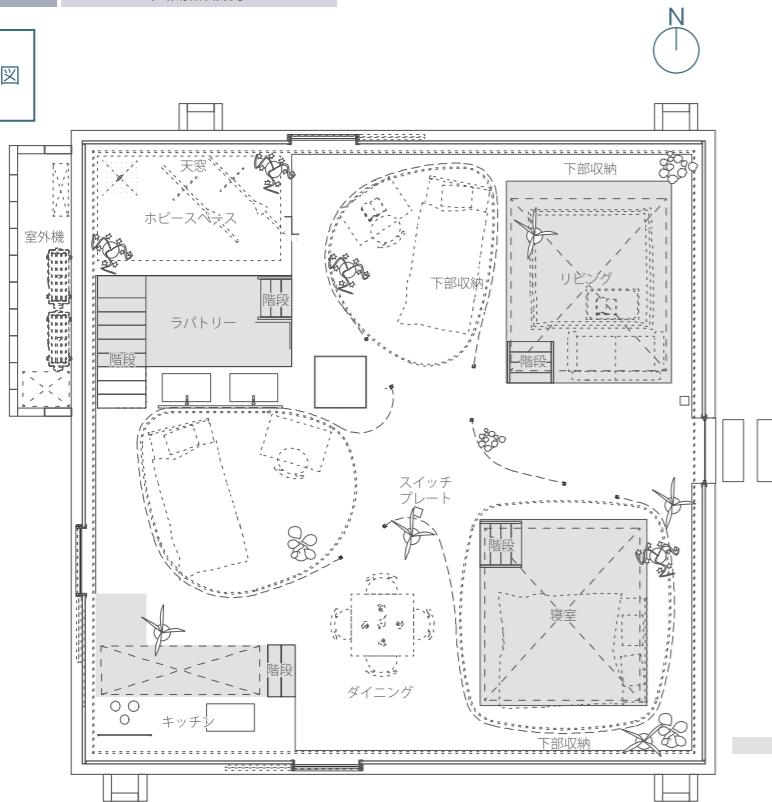
◎建物概要

建設地 広島県安芸高田市
敷地面積 490.00m²
延床面積 81.00m²
構造・規模 鉄骨造(基礎RC造)

◎設備面の特記

厨房機器	IHクッキングヒーター
給湯機器	ガス給湯器
	エアコン
	床暖房(電気ヒーター式)
冷暖房機器	地下水による床暖房、冷却
	太陽熱暖房

平面図



配置図



設計コンセプト

多くの建築では「窓は窓、壁は壁」として別々のものをつなぎ合わせる様に作られてきた。しかし、窓であり壁でもあり柱でもあるような新しい建築のあり方も可能だと考えた。「建築は、もっと自由になれる。」そんな建築の提案である。

のどかな田園風景の広がる敷地に、風景に溶け込むような透明な建築が求められた。まず敷地に小さな丘を作り、その丘の上に家具や生活品がばらばらと置かれ、自然の中に日常生活が入り込んで混ざり合うような風景を提案している。丘の上には薄い屋根だけが存在し、その下で生活が営まれることで住まいになっていく場所を作った。

屋根を支えるのは、透明な40mmのアクリル壁である。壁と窓が一体となったような存在であるため、視線を遮られることなく周辺環境とつながることができる。高低差によって生活の環境

を分けながら、エクスピンドメタルで緩やかに囲うことで、重なりによって風景との濃度が変わる。あたかも建築の内部に霧がかかり、そこに生活に必要なものが置かれていくさまをイメージした。

また、庇はアクリルの開口部の高さと同程度に出すことで、雪や日射から建物を守りながら温熱環境をコントロールし、自然に屋根を架けただけの空間が生活に豊かさを与えている。屋根だけで建築化された場所、そこには多様なものが混ざり合った豊かな風景が存在する。環境と建築の関係性、建築自身の関係性、分けられたものが混ざり合っていく先に、建築はもっと自由になれる。

審査委員講評

外で食事をしたり、風呂に入った方が気持ちが良いと思いながら、建築をつくるということは矛盾のようだけど、諦めずに両方を成立させようという強い意志を感じます。イメージを表現することと、実際に実現させることでは、その意義は大きく異なります。建築の可能性を示し、建築に携わる人に勇気を与えてくれる素晴らしい作品だと思います。



1.庇はアクリルの開口部の高さと同程度に出すこと、雪や日射から建物を守りながら、温熱環境をコントロールし、自然に屋根を架けただけの空間が生活に豊かさを与えている。



2.3.4.5.半地下部分に生活の拠点をプランすることで、プライバシーを確保するとともに、雑多な生活部分を周辺から切り離す。まるで豊かな自然の中にある人間の巣のような建築となる。内と外を分けるアクリル壁は、40mmの厚さによりペアガラスよりも高い断熱性能をもっており、快適な内部空間を作り出している。また、半地下の空間は四季の温度変化の中でも安定した室内環境を実現した。



佳作

片岡 八重子・荒川佳大
株式会社 ココロエ【作品名】
鞆町の住宅

設 計 株式会社 ココロエ
施 工 笑古材建築ハウスタンス
竣 工 日 2016年6月1日

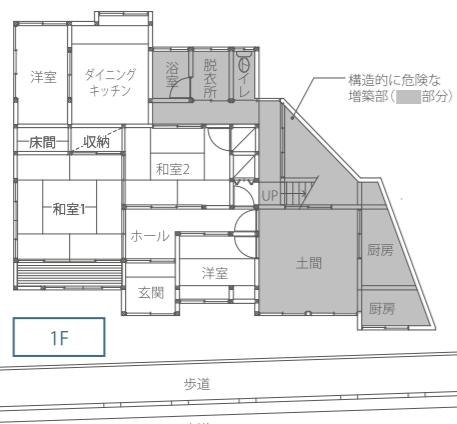
◎建物概要

建 設 地 広島県福山市
敷 地 面 積 224.20m²
延 床 面 積 82.81m²
構 造・規 模 木造平屋建

◎設備面の特記

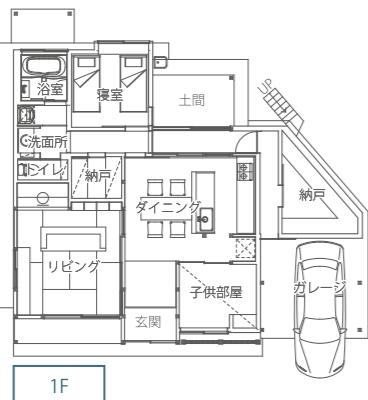
厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	ガス給湯器
冷暖房機器	エアコン
そ の 他	食器洗い乾燥機

リフォーム前
平面図
N



1F

リフォーム後
1F



設計コンセプト

クライアントは港町の観光地である鞆を移住地として希望しており、2階から海が眺められる本物件を壊して建てるのでなく、直して住むことを提案しました。しかし構造が不安定であったり、海風の通り道を塞いだりと、幾度の増築によって住環境が悪化しており、外観も不景いで地域の景観に馴染まないものでした。そこで、4つの方針のもと改修を行いました。

①減築と耐震補強による空間の再構築

無理な増築によって不安定だった箇所を減築し、平屋建て部分を残しました。既存の構造要素である土壁を活かし、さらに耐震壁を増やして、耐震補強を行いました。

②鞆の景観イメージに順応する外観改修

外観は鞆の古い町並みに合うよう、仰々しかった玄関の入母屋を撤去し、代わりに庇を取り付けて軒のラインを揃えました。プライバシーの確保のための玄関の格子戸、窓の出格子、庭の大和塀

も景観の調和に寄与しています。

③省エネルギー設備の導入とバッジソーラー減築することで、ダイニングに光を取り込める西側の土間が生まれました。リビングには大和壁で囲まれた中庭をつくり、通りからの視線を遮って小さなプライベート空間を生みだしています。この2つの庭によって光を取り込みながら風が通り抜ける空間を生みだしました。

④立地や風土を楽しめる暮らしの場づくり

倉庫とガレージの屋上にはデッキをつくり、海や花火を眺められるようにしました。アウトドアが趣味のクライアントのために大きな倉庫もつくれています。また、元々あるものになるべく使いたいという希望から、木製建具や竿縁天井をそのまま利用し、床板や瓦を再利用しています。

審査委員講評

昨今話題の地域に、移住してこられた施主。その施主のこだわりと暮らしぶりが伝わってくる作品です。

土壁、格子、畳、木製建具など既存のものを活用した和の意匠。減築することによって生まれた土間や中庭、展望デッキ。コストをかけずとも、豊かな空間を創りだせるのだということを示してくれた作品です。設計と施主のいい出会いに乾杯!

4.5.なるべく元々あったものを使いたいという希望があり、既存の木製建具や竿縁天井はそのまま活用しています。



4



1



5



2



3

1.2.構造については無理な増築によって不安定な状態だったので、建物の不要な部分は減築して平屋建て部分を残しました。また、既存の土壁は残しながら、その上に構造用合板などで補強を施し、既存の構造要素を活かした耐震補強を行いました。
3.外観は鞆の古い町並みに合うよう、仰々しかった玄関の入母屋を撤去し、代わりに庇を取り付けて軒のラインを揃えました。プライバシーの確保のための玄関の格子戸、窓の出格子、庭の大和塀も景観の調和に寄与しています。

審査委員
特別賞

鳥取県

木村 智彦

グラムデザイン一級建築士事務所

【作品名】
岡成の家

設 計 グラムデザイン一級建築士事務所
施 工 辻工務店
竣 工 日 2015年1月31日

●建物概要
建 設 地 鳥取県米子市
敷 地 面 積 852.00m²
延 床 面 積 127.78m²
構 造・規 模 木造平屋建

●設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

配置図

N

N

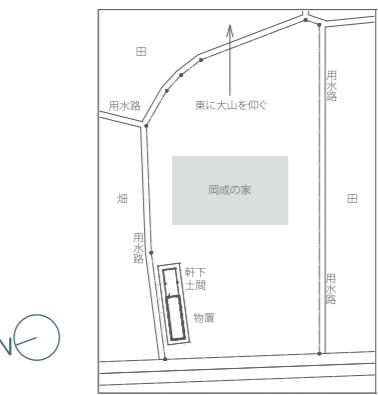


2.3.長い時間を大きな屋根の下、棟持柱に支えられる大空間で家族が過ごす。この大空間の中に、箱状のキッチンを配置している。



1.引違いに見える窓は、片面をFIXとし、あそびの少ないつくりとして、気密を確保しやすくしている。軒の高さ、軒の出、屋根の勾配を決定する際には、モックアップを制作し検証も行った。

平面図



設計コンセプト

岡成の家は、設計者である私とその家族のための住まいである。土地探しにも数年を費やし、やっと巡り合えたこの敷地は、名峰大山を仰ぐ田園風景の中にある。この自然豊かな環境の中で時を過ごすには、大らかな住宅が相応しい。大きなかわい妻の屋根を掛けることに決めた段階で、現地に軒のモックアップを作製し、屋根勾配と軒の高さ、軒の出を検討した。大山を仰ぐ東面と、対称にある西面は、ほぼ同じ立面をもつが、山の環境は風も強いため、引違いに見える木製建具は、片面を嵌め殺して気密を確保しやすく述べている。東と西に

大きく庇を伸ばすが、棟に並行してトップライトを設けているため、日中は室内が暗くなることはない。そのトップライトには、光の強さを調整するとともに、同時に空気層をつくり結露を防止するために、ツインカーボンに布を貼り付けたものを室内側に嵌めているが、そのついた自らでも出来る造作や、外壁杉板塗装、内装ラワン合板の染色など、友人などの手も借りながら、自らも施工に関わり建築した。住める程度にまで職人達の力を借りてつくり、あとは住みながらつくる。家族と共に成長する家。棟持柱に支えられる大屋

根は、尺4寸の棟木と、間おきに配置される梁の架構を現しにしている。細やかなディテールへの配慮も大切に考えるが、ここでは均整のとれた骨格を持ちながら、大らかな空間をつくることに重点を置き設計を行なった。現在もまだ手を加え、工夫を重ねて生活している。

審査委員
特別賞

島根県

福田 勝

有限会社 万設計

【作品名】
抱陽の家

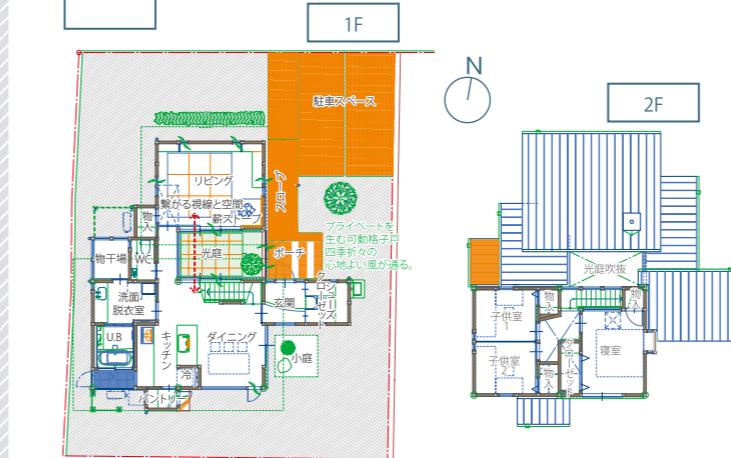
設 計 有限会社 万設計
施 工 有限会社 大広建設
竣 工 日 2015年12月25日

●建物概要
建 設 地 島根県益田市
敷 地 面 積 256.29m²
延 床 面 積 106.65m²
構 造・規 模 木造石州瓦葺き2階建

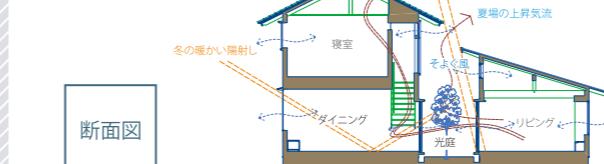
●設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 薪ストーブ

平面図



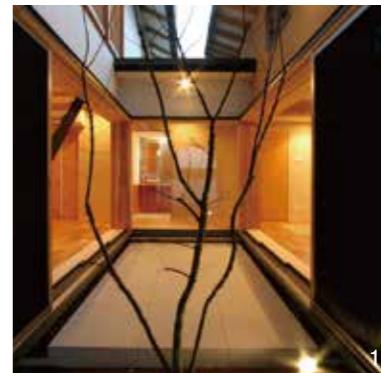
断面図



設計コンセプト

島根県石見の地域性を生かした家づくりを展開。地域材(石州瓦や木材)の積極的活用と素材を生かし、快適で且つ省エネルギーを考え、永く住継いで行ける良質な住宅を目指した。職人技を必要とし、各職人が手間暇かけて作った木造の良さを感じさせる家である。この住宅環境(場所)は2方を道路で囲われた角地で、東と南には総2階建ての住宅が隣地いっぱいに建っている。そのため、敷地としての景色は期待できず、道路に近いため騒音や外部からの視線をいつも気にしなければならない結構条件の悪い場所であった。

それを解決するため棟を分けて建物(部屋)を配置し周囲を囲い、開放できる可動式格子で小さなライトコート(光庭)を設え、そこから入る自然光と外気を感じる中間領域で、その場所に立つことで分かる視線を気にすることのない外と繋がるような開放感を生み出す。また省エネルギーにも目を向け、今は当り前の高断熱性能、且つ空気循環を開口部の配置と間取りで構成し、リビングに設置された薪ストーブにより、日中の暖気を夜には解放させて2階への寝室へジワリと導き、朝まで快適性を自然に感じる。



1.建物を2分棟状にし、それによるリビングは光庭を介し視覚的にも感覚的にも1棟につながるものとした。光庭の中間領域を一体にする事でそれぞれの小さな空間は広がりをもち、柔らかく差し込む光や風をとり込め、豊かな非日常空間が生まれ日々楽しむ事が出来る。



審査委員
特別賞

岡山県

高吉 輝樹
TT Architects

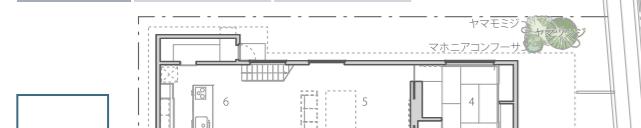
【作品名】
夏の家

設 計 TT Architects
施 工 中本屋工務店
竣 工 日 2015年12月20日

◎建物概要
建 設 地 岡山県倉敷市
敷 地 面 積 397.30m²
延 床 面 積 212.98m²
構 造・規 模 木造(一部鉄筋コンクリート造)2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン 温水式床暖房



平面図



1.リビングの天井からひと続きの軒が、南側にある中庭に向けて2m伸び、同時に石張りのテラスが広がっています。軒は正面ファサード側にも廻り込み、コンクリート打放しの外壁から、二枚の木製の軒が跳ね出ている外観を作っております。内外ともに夏の日差しの陰影を感じられる住宅となりました。

2.3.4.リビングをはじめ、玄関や和室など各所に採光・通風を確保し、落ち着きの中にも明るさを感じられる工夫をこらしました。

設計コンセプト

「家の作りやうは夏を旨とすべし」

夏の日差しを楽しむ、夏のための家です。

「深い、深い、軒が欲しい。それは包まれるような安心感を生みだす。」御施工様のこの言葉から計画はスタートしました。まず建物形状は、敷地に対して南側に開いたコの字型とし、その中央部分にリビングをレイアウトしました。

リビング・ダイニング・キッチンで40帖程の広さを確保し、落ち着いた印象を出すために、天井に

は濃色のウォールナットを使用しています。その天井からひと続きの軒が、南側にある中庭に向けて2m伸び、同時に石張りのテラスが広がっています。十分に外部環境を取り込んだリビングは、両袖がビルトインガレージのバックヤードや焼杉の外壁で囲まれており、プライベートなくつろぎの空間となっています。

軒は、正面ファサード側にも廻り込み、コンクリート打放しの外壁から、2枚の木製の軒が跳ね出ている外観を作っております。内外ともに夏の日差しの陰影には適していると考えます。

審査委員
特別賞

広島県

櫻井 朗
KALEIDO DESIGN一級建築士事務所

【作品名】
トンネルの家

設 計 KALEIDO DESIGN一級建築士事務所
施 工 株式会社 大和興産
竣 工 日 2014年12月22日

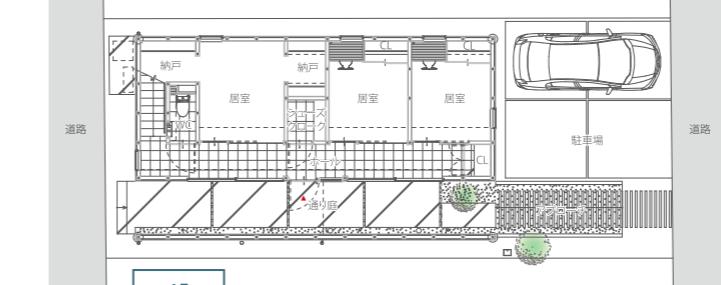
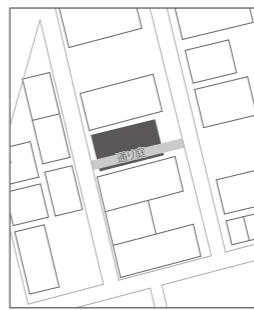
◎建物概要
建 設 地 広島県広島市
敷 地 面 積 129.34m²
延 床 面 積 110.02m²
構 造・規 模 木造2階建

◎設備面の特記

厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン
そ の 他	食器洗い乾燥機



配置図



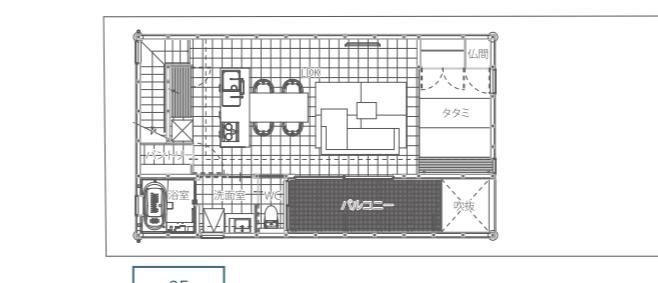
1F



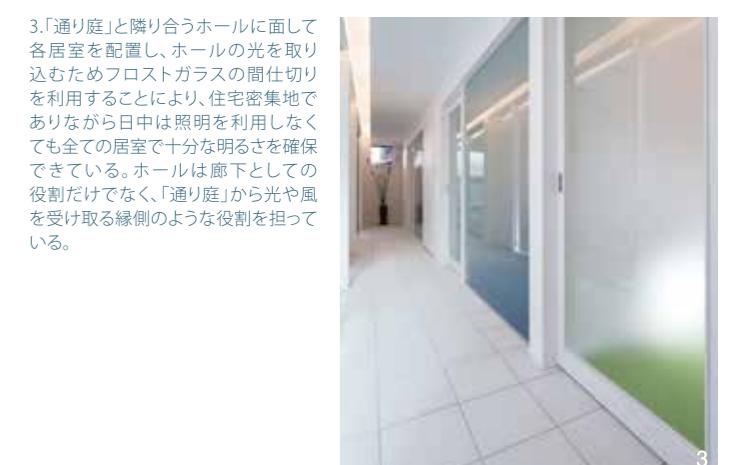
2



2



2F



3

設計コンセプト

敷地は、形状や大きさもバラバラな建物が乱雑に建ち並び、隣家がすぐ傍まで迫る住宅密集地の中に位置し、南北二面の道路に接している。このスペースのない密集地の中で、多くの家は道路側に大きな開口を設けそこから採光や通風を確保しようとしているが、皆同様にプライバシーを確保するためにカーテン等の目隠しをして生活をされている。それならば、この密集した中にも空いたスペース「隙間」をつければそこから光や風を外部からの視線を気にせず取り込めるのではないかと考えた。

そこで、この敷地の最大の個性である二面道路を活かし、京都の町家のような「通り庭」をつくることにより、密集した外部環境に空いたスペース「隙間」を生むことを考えた。この「通り庭」は、住まいへ入るアプローチであり、1階へ光を導く縁側であり、子供達の遊ぶ中庭であり、使い方によって様々な表情をもつ空間となる。

平面計画としては、密集地で暗くなりがちな1階は、明るい「通り庭」に面するように片廊下式のホールを配置し、各居室はそのホールから明るさを受け取る計画とした。2階は、引き戸を開け放せば水周りも含めて、全てのスペースが繋がる大きなワンスペースとなる間取りとし、採光や通風を全てのスペースで確保できるよう考慮した。

雑然とした住宅密集地の中で、この「通り庭」が外と内の境界を緩やかに繋げ、窮屈な環境に明かりとゆとりを住まい手にもたらすと共に、この住宅街自体のゆとりになってほしいという思いを込めて計画した。

笹栗 和幸
積水ハウス 株式会社

【作品名】
住む～変化をたのしむ～



設 計 積水ハウス 株式会社 徳山支店 一級建築士事務所
施 工 積水ハウス 株式会社 徳山支店
竣 工 日 2015年8月22日

◎建物概要

建設地 山口県周南市
敷地面積 146.06m²
延床面積 68.25m²
構造・規模 木造平屋建

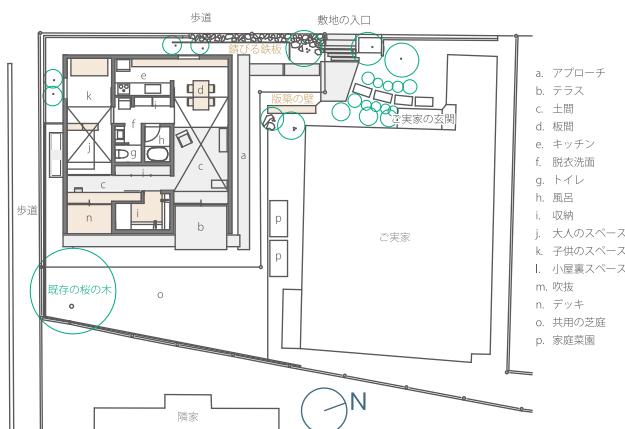
◎設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	エネファーム
冷暖房機器	エアコン 床暖房

断面図



平面図



1



2



3

1.水廻りや収納機能を中央にまとめ、そのコアで全体空間を2つに分ける計画。ご実家側が写真のパブリックなスペースになる。杉の板の間に~内の土間~木製サッシ~外の土間~ご実家と共に芝庭とつながっていく。また、風は通り抜け、光は心地よく入ってくる。

2.開口にはカーテンはつけず、境界際に素地の鉄板を目隠しとなるように施工。鉄という経年変化を樹木の季節の変化と共に楽しめる開口になった。また、開口を延焼ライン内に設置しないように防災面にも配慮した。

3.建物のおおよそ半分が土間空間。玄関ドアではなく、木製サッシから直接メインの土間空間に入る。土間が玄関になり、居間にも書斎にもなる。土間により、うつとそとの境があいまいになり、つながっていく。

設計コンセプト

共働き夫婦と女の子と男の子、4人家族のための住宅。
市内中心部に位置し、交通量の多い道路に面したご実家の敷地の一部を使って、新しい暮らしを計画。打ち合わせの初めに「住む」という雑誌5冊をお持ちなり、新しい住宅での生活のイメージを明確に提示された。(「経年美化」や「燃えた時、残るものは使いたくない」など)
もともと平屋が建っていた場所に、また新しく平屋を建てる。
変えないことと変えること。古いものと新しいもの。

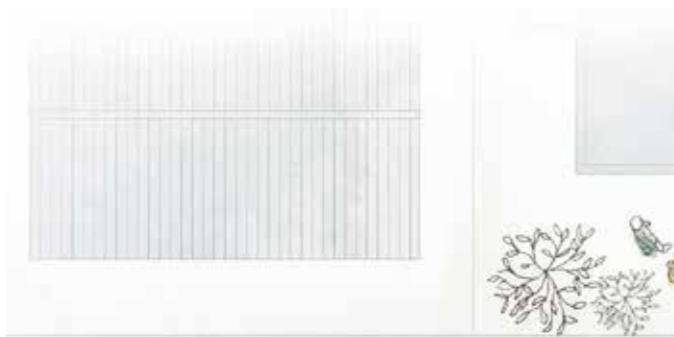
そして変わっていくもの。敷地条件より限られた空間ボリュームの中、4人家族が暮らすためのコンパクトな空間を提案。中央に水回りや収納と集めコアをつくり、そのコアで、北側に人を招き入れるパブリックなゾーン、南側に家族がくつろぐゾーン、空間を2つのゾーンに分けて計画。そして、それぞれのゾーンとご実家を、共有する既存の桜の木がある芝庭でつながっていく。室内空間は基本仕切らずに家具等で可変的に利用。変化していく生活スタイルに対応。床のレベルには少し変化を。室内空間の約半分を土間として計画。モルタルの土間と杉の無垢

板に珪藻土の塗り壁。自然と錆びていく鉄板の扉、版築の壁。

既にお持ちだった家具や購入されるビンテージの家具を考慮し、造り込み過ぎずシンプルに計画。床や造作家具等の新しい素材も、敢えて初めから古いものにあわせずに、素材感を大切にし、自然な変化を楽しめるようにした。

年月の経過とともに更に魅力が増していくような住空間を目指した。

最優秀賞

岡田 直果
広島工業大学【作品名】
まちがとけこむ

平面図



設計コンセプト

道路に沿ってひしめき合いながら建ち並ぶ住宅街の中で、抜けとなり密集したまちを溶かしていく。住宅街に建つ二世帯住宅。快適に心地よく暮らしながら、まちをつないでいく。

審査委員講評

「まちがとけこむ」の目論みが無理なく実現しそうな提案です。既存のアイデアや方法論をバランスよく組み合わせるところにこそ独創性や斬新さは生まれるのだということかもしれません。平面図、断面図、イラスト、計画図を駆使した提案は非常にわかりやすく、見ていてワクワクします。“クライアントに見せて納得してもらう”ことも建築家の大事な資質だと思います。

採光
計画

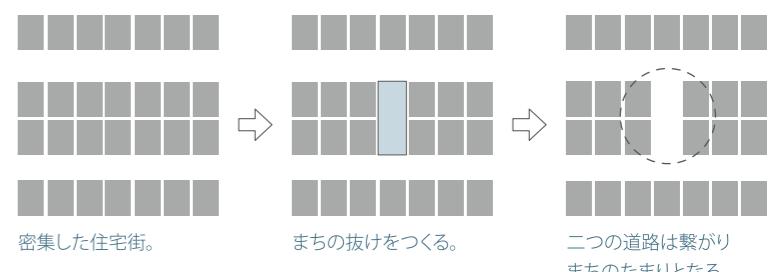
壁で完全に囲わず、隙間をあけることで採光を確保。ガラス面をセットバックすることで深い軒に、落葉樹を植えることで採光と室温をコントロールする。

通風
計画

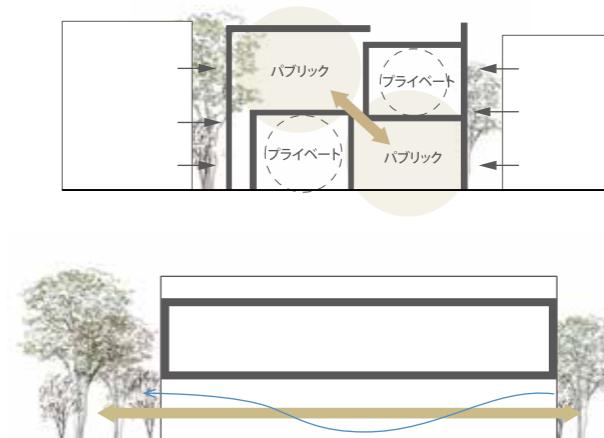
南北に開口をとり、風の通り道を計画。風の出入り口にある植栽により心地よい風が吹き抜ける。リビングダイニングでは、上部開口から夏の熱気を逃がす。

植栽
計画

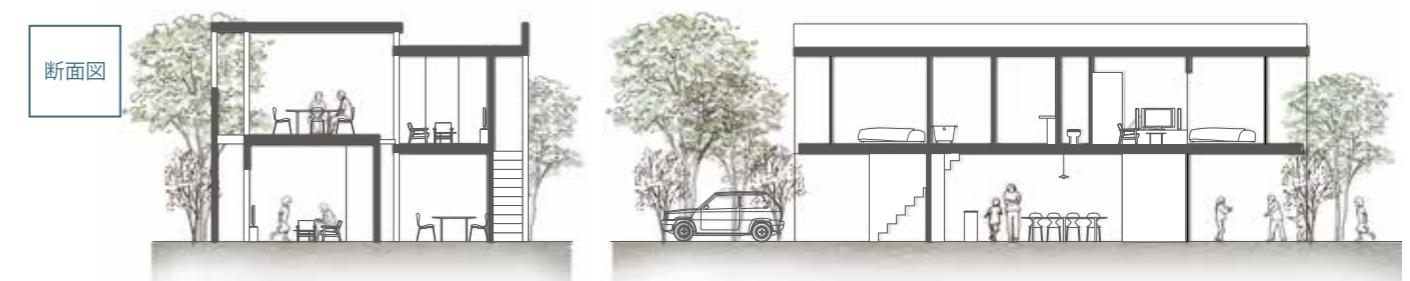
開口の前に植栽を配置しプライバシーの確保と防犯。また、夏は日差しを遮断し、冬は葉が落ち日差しを取り込むことで日差しをコントロール。四季を感じられる空間となり、まちに豊かな景色を与える。



プライベートな筒と筒の間に透明な内がひろがる。二世帯は天井と床に共有し、隙間からこぼれる光によりつながる。隣地からのプライベートを守りつつ、まちにひらいた快適な住まいに。



道路と同じテクスチャの抜けにより2つの道路は繋がる。風・視線・人の通り道となり、まちの一部となる。



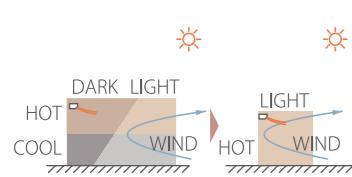
優秀賞

山本秀人
広島工業大学【作品名】
小さいという事

01

小さなボリュームで構成

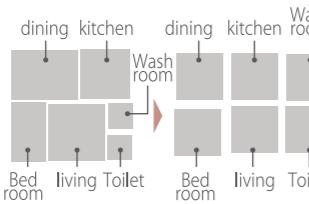
この住宅は小さな空間を大事に構成していきます。これによって採光、風通し、空調、などの環境に寄り添う空間が出来ます。



02

全てが室として機能

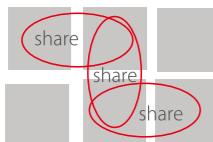
全てのボリュームを同じ寸法とします。これまで室として扱われなかった水回りや玄関などがリビングやダイニングと同じ扱いとなり使う空間から過ごす空間へと変化します。



03

箱がつながることで
生まれる新たな空間

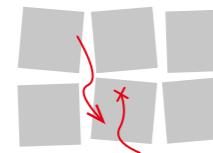
用途によっては小さくある事で不自由になる事も考えられます。機能が十分でない場合周りより補完し機能します。これまで完結していた各室が隣接する空間とつながり新たな生活の可能性をもった室となります。



04

ずれによって
生まれる豊かさ

少しづつ角度をふる事で空間をつなぐ動線、かかる動線が生まれます。これによって道ができ風や光を取り込みます。閉じたところはプライバシーを守る更に小さな庭となります。またそろった壁面では無い表情のある立面になります。



設計コンセプト

これまでの住宅は大きすぎました。奥行きがありすぎる事で暗い場所が大きな事で時に暑く、時に寒い…。まちに対して立ちはだかる大きな壁のような建築ばかり。小さな事で生まれる豊かさを提案します。

審査委員講評

住宅とはこういうものという既成概念ができあがっています。そのことに疑問をもち、把われずに計画しようとする姿勢は常に大切なことだと思います。リビング中心といったイメージの住宅像から離れ、トイレもリビングも更には庭までも等価に扱った住宅の在り方が提案されています。様々な新しい可能性を感じます。生活の楽しが伝わる更なる提案を期待します。

外とつながる明るい部屋



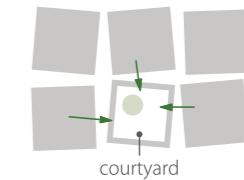
屋上に色づく植物達



05

小さな庭

小さな庭をもつ事で室の延長をつくり、時には遊び場として、時にはリビングとして機能します。また風や光、自然の移り変わりを感じる事ができるようになります。



06

屋根一面に広がる植物

屋上はすべて緑化し大地を覆う植物のタイルのような建築とします。春には花を咲かせ、夏には影を、秋には実をつけ、冬には落ち葉が住宅を彩ります。緑化によって建築内の環境の変化を穏やかにし過ごしやすい環境づくりに加担します。



07

つながり、
抜けるスカイライン

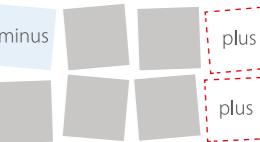
植物に出来るだけ近い暮らし出来るよう建築は低層とします。これによってまちに対しても高い壁を造らないため開放的で空に開けたものとなります。高さの変化も与えない事で屋上階でも視線が抜けつながっていきます。



08

無理のない構造

建築は小さな箱の連続となる為、明快な構造となり力強く家庭をさえます。家族の変化によっては増築、減築も容易で普遍的な住環境を提供する事が出来ます。



まちに顔を見せる花や木



前本 哲志
呉工業高等専門学校【作品名】
大屋根の下でつどう家ダイア
グラム

敷地条件	第一種低層住居専用地域
道路幅員	北6m 東6m
家族構成	親夫婦2人、子夫婦2人
構造	木造
規模	地上二階建て
◎建物概要	
敷地面積	297.75m ²
建築面積	297.75m ²
建蔽率	43%
延床面積	97.72m ²
容積率	33%

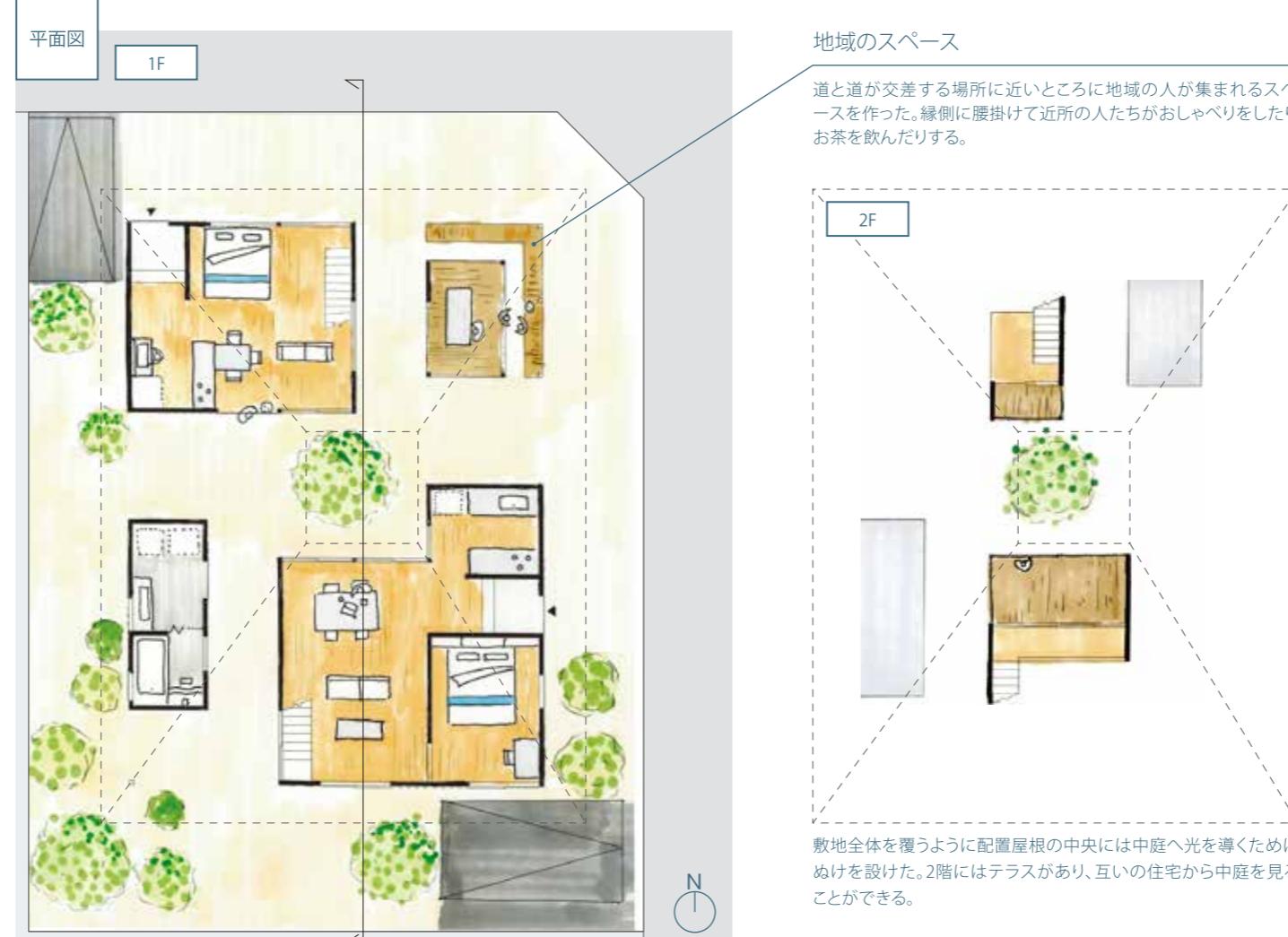


設計コンセプト

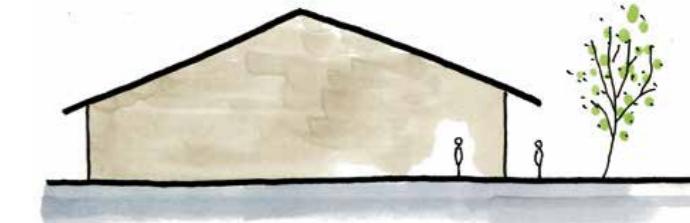
大きな屋根があるということ。
屋根があればその下には空間が生まれる。
その空間はどんな要素を持っているか。
家族が暮らす空間。
家族が勉強し、成長していく。
両親が1日の仕事の疲れを癒して、くつろぐ。
祖父母が子供や孫の暮らしを見守りながら、ゆったりと1日を過ごす。
大きな屋根は昔から人々が安全に暮らす住空間を構成し、これまでの長い年月の生活を支えている。
家族が自然と触れ合う空間。
大きな屋根があることで生まれてくるのが「半外部」という空間だ。
大きな屋根の下の壁で囲われていない場所。
そこには風が流れ、植物の気配を感じることができる。
子供達は雨の日でも部屋から出で、雨の音や温度を近くに感じながら1日を過ごすことができる。
住人と近所をつなげる空間。
大きな屋根は、家の前を通る人々を迎える。
そして地域とのつながりが生まれていくのだ。
子供達が学校から帰ってくる。
友達と本を読んだり、宿題と一緒に終わらせたり、軒下に机や椅子があればそこで気軽にお茶をしながら話をする。
そんなふうに大屋根の下に家族、自然、地域が集まる住宅を設計した。

審査委員講評

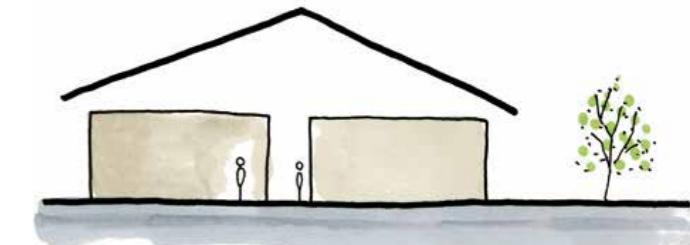
大屋根の頂点を切り取り、住宅の中に庭をつくるという発想が面白い。内部では諸室を分割し、互いに離れた配置や構成は中庭を曖昧な形にしており、内外の空間のより細やかなヒエラルキーを助長させています。自然光に満ち、風が吹き抜ける庭には樹木も育ち、素晴らしい住空間となるでしょう。近隣の住民のためにも開かれた提案など、理想的で実に見事な提案です。



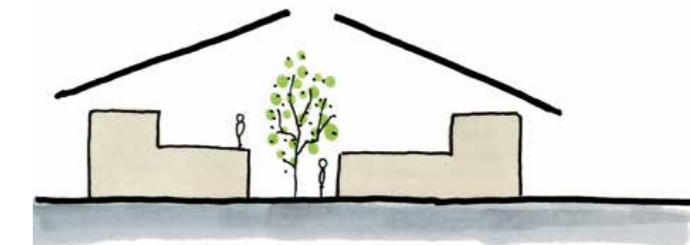
N



1. 大きな屋根をもつ住宅



2. 大きな屋根の下で住宅や機能を分割世帯ごとに、また風呂場や地域のスペースを作るこれにより、大屋根の下に半外部空間が出来上がる。



3. さらにそれぞれの空間の敷地中央側を外部とする。中庭が作られ、住宅内部まで自然を誘い込む。



審査委員特別賞

三坂 真優
広島工業大学【作品名】
かぞくのまち

平面図

N



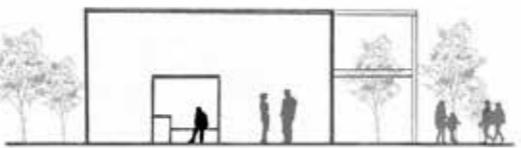
断面図



住民ははしごを持って好きな屋根を探しのぼる。建物の間から茂るみどりと、外からの風で心地のよい空間。住宅という建物内に居るはずが、外に居るような空間の中で趣味に没頭する。



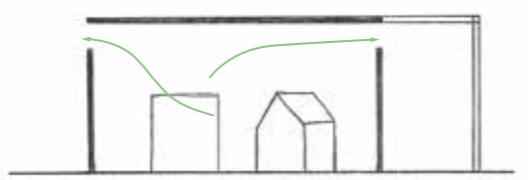
建物の間で1番開いた空間。まちの公園であり、家族のリビングになる。天窓から光が入り、ウッドデッキにつながる大きな開口部から風と外の声が聞こえてくる。

ダイア
グラム

1.小さな家だけが個人のスペース。外は家族との共有空間が広がり、さらにもうひとつのまちが外に広がる。自分の部屋から家族のいる空間へ、家の中から町民のいる街へ。少しづつ空間が開き繋げていくことで、徐々に関係を築く。



2.家族で共有するにぎやかな空間とプライベートな静かな空間。対称的な空間を大きな住空間の中で対称に配置し、さえぎるもので区切る。小さな住宅は角度もばらばらに配置しているため、小さな住宅の外では、風がぬけ光が流れ、分けながらも互いの存在を感じながら過ごす。



3.小さな住宅は全て一層の建物である。住空間の上部に遮るものはない。上部に開口部を設けることで効率よく空気を排出し、循環させることができる。

設計コンセプト

ひとつの大きな住空間にまちの風景を取り込む。まちの中には家族の小さな家を建て、キッチンのある食べ物の家を建て、服や靴を納める収納庫を建て、それぞれの用途ごとにまちに建物が建り並ぶ。

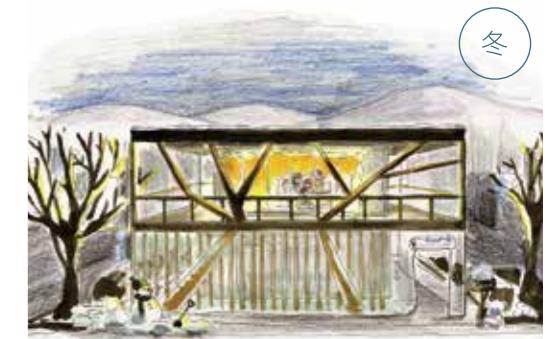
小さな家が個人の空間となり、その外が家族との共有空間になる。建物の間を人が通り抜け、大きく開いた場所はリビングになり、狭くあまり開いてないスペ

ースには近くの建物から生活が溢れ出し、建物とつながるスペースとして使われる。屋根と壁の上部に開口部を設け中から空を眺める。屋根の上に人が上り、開口部からもうひとつのまちを眺めながら好きなことに没頭する。読書、スケッチ、音楽鑑賞など。何も遮るものがない屋根の上には外から風が吹き込み、心地のよい空間が広がる。

審査委員特別賞

玉井 双喜・吉田 彩野・山田 汐音
島根大学【作品名】
季節と共に

春

ダイア
グラム風通しの良いデッキ
空間が生まれるビニール部分を季節
に合わせるビニールハウスで覆い
建物を温かくする

平面図

1F

2F



断面図



設計コンセプト

四季はまちの様子、人々の生活スタイルを変化させるものです。夏から冬につれて落葉樹は葉を落とし、人々は服を着込みます。そこでビニールハウスのように建物にも服を着せます。また、ビニールハウスの骨組みを落葉樹のようにデザインすることで変わりゆく季節に溶け込む住宅を考えました。